

Vol,14 2015年 春号



鳥海イヌワシみらい館  
マスコットキャラクター  
「ワッシーくん」

バードウォッチングへの誘い「サシバ、日本に舞う」  
イヌワシってどんな鳥？「冬のイヌワシ」  
サシバの繁殖場所・谷津田-山形県の例

『アナグマ』酒田市にて  
撮影：長船裕紀

# 「サシバ」日本に舞う！



ワシやタカという名前がつかない猛禽類の代表「サシバ」。イントネーションによっては全く別物になってしまいます。そんな彼らも、いつも日本にいるのではない渡り鳥の仲間。近年、その生息数が急激に減少しているということをご存知ですか？ 重要なのは彼らの生息環境である「里山環境」。特に谷津田と呼ばれる谷あいの地形は、彼らにとっては欠かせないものです。幸いにも庄内地方にはまだこうした環境が残されていますが、水田が放棄されたり開発にさらされる危険もはらんでいます。

全国のみなさん！今年も無事大海原を乗り越えて日本にやってきてくれたサシバを温かく迎えてあげてください。そして要注目種サシバを知って、その生息環境の重要性を理解しましょう！



ハシボソガラスくらいの大きさ

## ●「サシバ」 名前の由来



マムシをとらえて飛行するサシバ

最初に名前を聞いた人が驚くのはその和名ではないでしょうか？サシバは差し歯も入れ歯もなかった鎌倉時代からそう呼ばれています。その由来には諸説ありますが、獲物に向かって真っすぐに飛んでいくから「刺羽」と呼ばれたとする説等があるようです。英名はGray-faced-buzzard、灰色の顔からそう呼ばれます。生態を知ることによってわかる昔の人がつけた和名の奥深さに感心ですね～。



## ●どこから やってくる？



環境省「サシバ保護の進め方」より

日本には繁殖のためにやってきます。繁殖地の北限は青森県です。これからの繁殖シーズンを日本で過ごし、冬を前に越冬地である南西諸島～東南アジアに渡っていきます。

## ●何を食べてるの？



サシバが豊かな環境を必要とするのには、その食性があげられます。サシバは春から秋までの期間を日本で過ごしますが、四季のある日本はその季節ごとに動物相が変化しますし、地域や環境によってもエサの種類は変わってきます。カエルやトカゲ、昆虫類といった季節によって種類や量が変化するからこそ、サシバが豊かな環境のバロメーターと呼ばれる所以なのです。

## ●「里山」それは人が作り上げる 動物たちの楽園



自然を破壊するだけが人ではなかったのです！実は人の手が適度に入ることは生物たちにとっても住みやすい環境になるのです。その代表が水田や畑を要する里山環境。サシバの減少要因の一つに水田の耕作放棄があります。動物と人間たちが支えあって共存する環境がサシバを守るのです。それが「SATOYAMAイニシアティブ」なのです！



# イヌワシってどんなワシ？⑬「冬のイヌワシ」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシって何？と思う人や図鑑でしか見たことがない人もいます。そこでシリーズ13回目は「冬のイヌワシ」について紹介します。

長い冬が終わりました。暖冬傾向だった山形県の日本海側、庄内地方ですが、ここ鳥海山の積雪量は例年並みに多かった冬でした。毎日の雪かきは欠かせません。雪かきをしながら今、鳥海のイヌワシ達は何をして過ごしているのかと、ふと考えることがあります。特に30cm以上積もるような豪雪だった日は心配になりますね。私たち人間はスコップや除雪機など「道具」を使うことができますが、はたしてイヌワシは大丈夫なのでしょうか。

11月～3月までの時期は、イヌワシにとっては1年でも最も重要な時期です。それはまさに子孫を残すための繁殖活動を行っている時期だからです。

ニホンイヌワシはこの真冬の時期に繁殖活動をしますが、海外に生息している、特に高緯度地域のイヌワシに比べ繁殖時期が早いことがわかっています。これはニホンイヌワシが森林の多い日本に生息するにあたって、広葉樹の葉っぱの展葉時期（冬に繁殖をすることで、樹木に葉が生い茂る前の森はノウサギなどの獲物を探しやすい）に関係しているといわれていたり、日本という土地柄「ヘビ」をとらえる割合が高いこと（春になって森林の展葉が完了すると、冬眠から目覚めたヘビの活動が活発化し、ニホンイヌワシがエサとしてヘビを捕える割合が増えます）が関係しているのではないかとされていますがまだ正確な理由は分かっていません。

イヌワシの巣は木の上や岩棚に作られます。雪の積もる地域では巣が雪の影響を受けないような庇のある場所が最もイヌワシにとって好都合なのですが、餌場や隠れ家等の条件も合わせると、完全に条件を満たす営巣場所はなかなか少ないのです。たとえ庇があったとしても、横殴りの吹雪になった場合は雪や風の影響は避けられないでしょう。

イヌワシが抱卵している巣の中で雪がイヌワシの体に積もり、一晩あけてその体に積もった雪をはねのける映像があります。この映像は鳥海イヌワシみらい館のホームページで、動画として見ることができます。一晩中雪に耐えて卵を守るイヌワシの姿を見ると卵を守ろうとする親鳥の行動と想いに胸が熱くなります。こうした雪国の過酷な環境、イヌワシにとっても雪との戦いに耐え抜いてやっと生まれてくるたった1つの命の尊さを私たちは理解しなければなりません。

さて、冬は私たちもスキーや冬山登山など、この時期にしか味わえない楽しみがあるのも事実です。しかし、このイヌワシのように山の自然を利用しているのは私たち人間だけではないという事を十分に理解して、冬の自然レジャーを楽しんでいただきたいものです。天候の変化を熟知したうえで、決して無理な計画をしないようにしましょう！

今年は全国的な天気を振り返りますと、これまで雪の降らなかった地域でも積雪が観測されたり、例年に比較して積雪が多かった地域もあったようです。今年の各地のイヌワシの繁殖状況がどうだったのか、各地で多くの吉報がもたらされることを期待したいと思います。

参考：イヌワシの四季（著：関山房兵）  
イヌワシの生態と保全（著：ジェフ・ワトソン）



巣の中のイヌワシ  
体の上に雪が積もります・・・



しばらくして、立ち上がり  
体を震わせて雪を振り落す。



積雪した巣

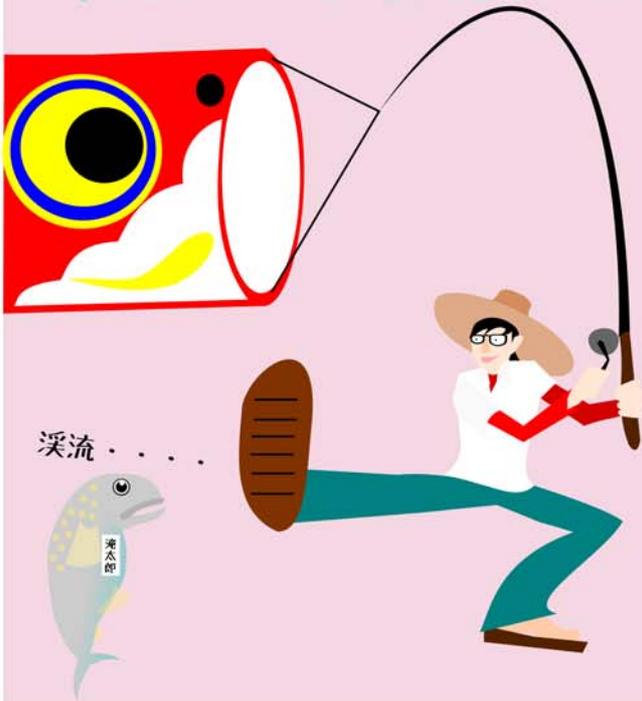
## 環境省 鳥海南麓自然保護官事務所

### 保護官着任のご挨拶

鎌田 憲太郎 自然保護官

皆様はじめまして、このたび4月より鳥海南麓自然保護官事務所に着任しました鎌田と申します。出身は秋田県で趣味は「釣り」です。ここに来たからには溪流釣りにチャレンジしようかなと考えています。

突然ですがみなさん、この鳥海イヌワシみらい館の名前の由来はご存じでしょうか？当時、北は北海道から南は沖縄まで公募し、全1,351作品の中から「イヌワシも暮らす鳥海山の地名を冠し、イヌワシの未来を守っていく活動をするセンター」という事がダイレクトに伝わる」という点が評価されこの愛称に決まったようです。イヌワシが元気に暮らす鳥海山・・・簡単に書いてしまいましたが実はこれはとても素晴らしいことなのです。すでにご存じかもしれませんが、イヌワシは絶滅危惧種に選ばれており、その数も年々減少しております。また、ちょっと専門的な話になりますが「アンブレラ種」と呼ばれ、生物多様性や生態系のバランスを保つ役割がある他、生息や繁殖の状況が環境の豊かさを知る指標にもなります。そんな豊かな森の象徴であるイヌワシが大空を舞う鳥海山、このようなすばらしいところで仕事ができる幸せをかみしめつつ、少しでもお役に立てればと思います。未熟者ですがどうぞよろしくお願ひします。



# 庄内の動物情報 二一

例年に比べ温かかったこともあって、春は早めにやって来そうです。この通信が発行になるころには、すでに北帰行も終わり、やがては次の夏鳥たちが入れ違いでやってくることでしょう。引き続き皆様の投稿をお待ちしています。投稿はmoukin@raptor-c.comまで。庄内以外の地域の方も是非情報をお寄せください。



2015/4月「カモシカ」酒田市  
日当たりの良い斜面に、シーズン限定の山菜としてカタクリをむしゃむしゃと食べるカモシカがいました。撮影：長船裕紀



2015/4月「ホトケドジョウ」酒田市  
サシバを探し歩くと、ついタモ網を入れたくなる溝が谷津田にあります。残したい里山環境に生きる貴重な淡水魚。撮影：長船裕紀



2015/2/18「ミサゴ」鶴岡市  
今まで意外と投稿の少なかったミサゴ。観察会でもあまり会ってないかもしれませんね～。撮影：宇佐美信一様



2015/1/29「オジロワシ」鶴岡市  
完璧なオジロワシです。全く隙がありません。撮影：宇佐美信一様



2015/1/12「大陸型ハヤブサ」庄内町  
ちょっとおながが赤いんですって。撮影：宇佐美信一様



2015/2月「ハヤブサ(右)とオオハヤブサ幼鳥(左)」酒田市  
体格差！これがオオハヤブサってヤツか！撮影：佐々木真一様



2015/2/18「コチョウゲンボウ」鶴岡市  
オオワシ・オジロワシに押されてなかなか名前が上がらない冬鳥です。普段遭遇するチョウゲンボウだと思ったらこんな鳥だったなんてことも！  
撮影：宇佐美信一様



2015/2/15「シジュウカラガン」酒田市  
一瞬見た時、羊の群れかと・・・。ヒシクイ？マガン？いや、シジュウカラに似たこの顔の配色は・・・シジュウカラガン！全員同じ動きですね。  
撮影：佐々木真一様



2015/2/15「ベニヒワ」酒田市  
全体的には地味なんですが、額にちょっとだけのせられた赤によって雅な印象になりますね。かわいいです。  
撮影：佐々木真一様



2015/3月「オウレン」酒田市  
今年は大いぶ早く咲きました。陽射しをあびて春の訪れを告げています。  
撮影：齋藤利孝様



2015/3月「キジ」酒田市  
冬に裏の畑で「エー！」とないているのがキジ。1万円札の裏に描かれる国鳥です。お札は単色刷りですが、実際はこんなに美しい。  
撮影：齋藤利孝様



番外編「ヤマドリ」岩手県  
となりのキジと形がよく似た鳥で、山にいるから「ヤマドリ」。体よりも長くのびた尾羽が立派です。  
撮影：岩手県 村井敬一様

# サシバの繁殖場所・谷津田

## 山形県の例一

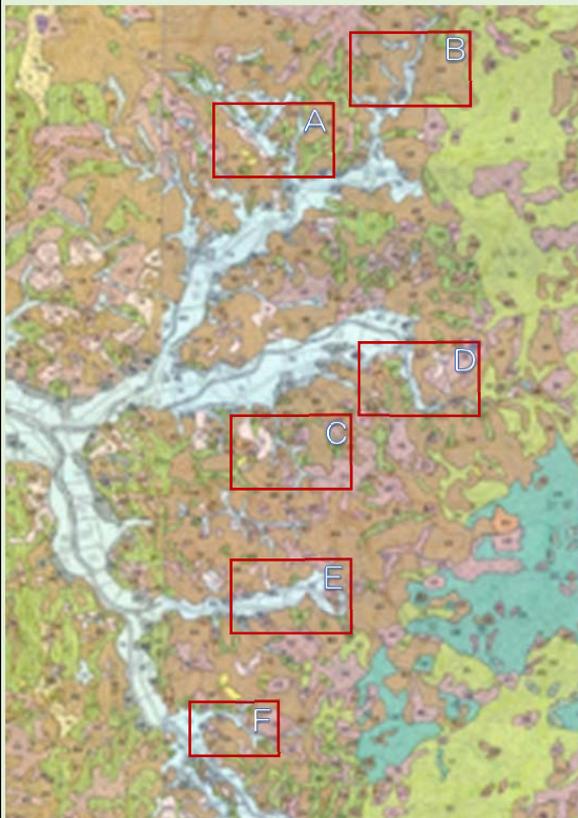
文・長船裕紀



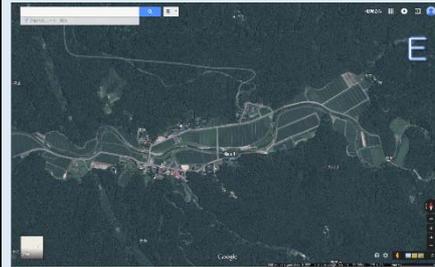
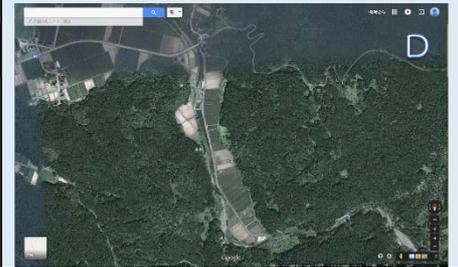
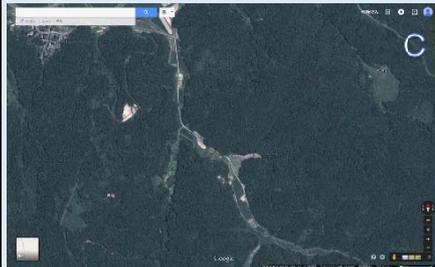
日本に飛来するサシバの多くは、日本の里山環境に適応し山地や丘陵地の山間に細く伸びた水田のある環境で繁殖します。一般的にこのような環境のことを谷津田や谷地田と呼び、このような環境で生活するわけですから、主な餌はカエル類、サンショウウオ類、ヘビ類、カナヘビ、ネズミ類、昆虫類などが多く、これらの仲間や大きさの動物であれば、なんでも餌になるといっても過言ではありません（時にはホオジロなどの小鳥も捕食します）。いわば谷津田生態系の頂点に位置するのがサシバといえるでしょう。

さて、みなさんは『谷津田』と聞いて景観が浮かびますか。実はスマートフォンやパソコンで簡単に見ることができます（注：インターネット回線につながっている必要があります）。下記左の塗り絵のような図は植生図といって植物群落を地図上に示したものです。下記右の6枚が航空写真です。植生図の水色に塗られた場所は水田で、A～Fが航空写真のそれぞれに該当する場所です。いずれの場所もサシバの繁殖やつがいを確認した場所です。ぜひ皆さんも航空写真を見ながらサシバの環境、谷津田探しをしてみてください。

植生図



航空写真にみる谷津田



引用参考：自然環境保全基礎調査植生調査（環境省生物多様性センター）、Google Map（画像©2015DigitalGlobe,地図データ©2015Google,ZENRIN）

谷津田がイメージできたら実際に訪れてみましょう。右の写真はCとBの谷津田の景観です。谷津田の水田の幅は基本的に谷間の大きさに左右されます。地上面の幅はCだと20m程しかありませんが、Bだと50m以上あります。どちらも谷の方向に向かって、小川＋農道＋水田といった構成です。そして農道と水田間や水田の周囲には、用（排）水路や、“ぬるめ”といった溝があります。山間といえども広い谷間の谷津田ほど、圃場整備が行き届いている傾向があります。とりわけBの用水路はコンクリートのU字溝（写真左手）になっていて、4月上旬に訪れた際には水が流れておらず乾いていました。圃場整備によってコンクリート化された用水路は、水管理上通水させないことも多いのです。また、U字溝には様々な生き物が落下しますが、地上生の甲虫や一部の両生類はコンクリート壁を登ることができず、移動を阻害するなどの影響をもたらします。

一方でCの谷津田環境は、用水路の多くが素掘りのままで水が滞留し、ホトケドジョウ、イモリ、トウホクサンショウウオの卵、マルタニシなどを見ることができました。さらに、ぬるめや圃場の水たまりには沢山のオタマジャクシ（ヤマアカガエル）が泳いでいました。

Cの谷津田景観



幅が狭い（水路は素掘りのまま）

Bの谷津田景観



幅が広い（水路はコンクリートU字溝）

# イベント開催報告

## ○ワシ・タカ観察会「冬のワシ・タカ探し」開催しました。

2月15日（日）鶴岡市大山下池にて冬のワシタカ類を観察しました。今年も遠いところは宮城県から参加してくれた人もおり、15名で大変にぎやかな観察会となりました。

講師は上池・下池を含む環境省国指定鳥獣保護区管理員の宮川道雄さんです。

今年の庄内地方は降雪も例年に比べ少なく、気温も高い日が続いたせいか、下池にも氷が張らず、観察小屋に近いところまで水鳥達が悠々とやってきていました。

開始早々、目的の猛禽類オジロワシが出現し、下池の水面で魚をとらえる見事なハンティングを披露してくれました。

日本ではなぜか下池に多く訪れるトモエガモのみみることができました。講師の宮川さんからは、マガモやトモエガモの飛来状況を他のラムサール条約登録湿地と比較したグラフを用いて解説していただきました。上池・下池合わせても39ヘクタールという非常にコンパクトな中に、多種多様な水鳥達が利用しているという事を理解していただきました。

少し早めに昼食をとり、午後からは下池の散策路を案内していただきました。今年はおオバンやカワセミに出会うことはできませんでしたが、植物相や昆虫などの解説をしていただきました。

最後にラムサール条約の本来の意味を理解し、現在、山形県でも各地で登録に向けて活動が活発になっているジオパークについてもう一度考える機会となりました。

講師の宮川道雄さん、参加して下さった皆さんありがとうございました。



魚を捕まえたオジロワシ



### 観察できた鳥

オジロワシ、ハヤブサ、ノスリ、ハイタカ、トビ、オオタカ、コハクチョウ、オオハクチョウ、アメリカコハクチョウ、アオサギ、ダイサギ、カワウ、マガモ、オナガガモ、コガモ、カルガモ、ミコアイサ、カワアイサ、トモエガモ、ヒドリガモ、ヨシガモ、ハシボソガラス、ムクドリ、ヒヨドリ、ツグミ、シジュウカラ、キクイタダキ？合計27種（うち猛禽類6種）

## ○野鳥観察会

### 「野鳥観察入門・最上川河口鳥獣保護区」開催しました。

3月15日（日）「野鳥観察入門・最上川河口鳥獣保護区」と題し、環境省鳥海南麓自然保護官事務所による野鳥観察会を開催しました。最上川河口鳥獣保護区より数百メートル上流に、国土交通省が設置する「小牧川水門」という施設があり、その施設内を特別にお借りして開催させて頂きました。講師は鳥海南麓自然保護官事務所、長船裕紀自然保護専門員です。

今年は3月としては天候もよく、暖かい日が続いたため、庄内の各地でも水鳥の北帰行が早まったようで、当日もあまり見られないのではないかと不安がありましたが、開始早々から「オオタカ」が姿を見せてくれました。

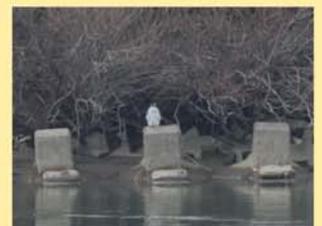
河川敷も散策しました。オオジュリンやホオジロなどの小鳥たちにも出会うことができ、居残りのカモたちを近くで観察することができました。本流にいたカンムリカイツブリは夏羽に生え変わりつつありました。

最後に講師の長船自然保護専門員から「マイフィールド」を持って観察を続けてほしいというメッセージを伝えました。これから先、マイフィールドの変化に気づいてほしいという願いがあります。

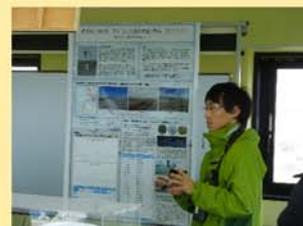
参加していただいたみなさんありがとうございました。



小牧川水門は野鳥観察に最適



ブロックに止まるオオタカ



### 観察できた鳥

オオタカ、ノスリ、トビオオジュリン、カシラダカ、シジュウカラ、ハクセキレイ、ホオジロ、ムクドリ、セグロセキレイ、キジ、ハシボソガラス、ハシボソガラス、オオセグロカモメ、ダイサギ、アオサギ、カワウマガモ、コガモ、カルガモ、カンムリカイツブリ、オナガガモ、ミコアイサ、ホシハジロ、ヒドリガモ、イソシギ？ 合計26種（うち猛禽類3種）

# イベント情報コーナー①

## ○猛禽類観察会「サシバ! 庄内に舞い降りる！」



近年、生息環境の悪化に伴い急速に数を減らしているサシバは、とりわけ猛禽類の中でも要注目種とされています。野鳥観察を楽しみながら、平成25年に策定された「サシバ保護の進め方」を基に、サシバを保護する理由と詳しい生態について迫ります。

期 日 平成27年4月19日（日）  
時 間 8：30～12：00 ※延長を希望される方は14：00まで  
場 所 酒田市平田地域  
集 合 現地集合  
定 員 先着15名  
締切り 4月16日（木）午後5時まで  
参加費 一人300円（保険、資料代）  
講 師 長船裕紀氏（環境省自然保護専門員）  
持ち物 双眼鏡（貸出可）、筆記用具、（延長の場合昼食）  
お申込み・お問合せ  
E-mail moukin@raptor-c.com  
TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）

※観察場所、集合場所は参加者に後日郵送にてお知らせいたします。

## ○鳥海イヌワシみらい館 開館15周年特別企画展示 「ハチクマと里山のクロスズメバチ」

「ハチクマって何？」  
「ハチクマってハチなの？クマなの？」

「ハチクマ」という名前を初めて聞く人も、ぜひ気軽に見に来てほしい、里山環境と食物連鎖の関係を体感できます。

昆虫写真家高嶋清明氏による、ハチクマの大好物「クロスズメバチ」の生態写真をもとに、エサから里山環境とハチクマの生態に迫ります。

期 日 平成27年4月25日（土）～6月14日（日）  
時 間 9：00～16：30  
場 所 鳥海イヌワシみらい館展示室  
入館料 無料  
主 催 猛禽類保護センター活用協議会  
協 力 高嶋清明（昆虫写真家）  
（有）サプラス  
酒田市光丘文庫  
ハチミツの森キャンドル  
（公財）盛岡市動物公園公社  
齋藤利孝

### ●期間中体験イベント

「蜜ろうそくを作ってハチクマの秘密を知ろう！」

期 日 5月2日（土）～6日（水）  
参加費 一人400円  
各 日 10名前後  
場 所 猛禽類保護センター特設会場  
お問合せ  
E-mail moukin@raptor-c.com  
TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）

鳥海イヌワシみらい館 開館15周年特別企画展示

# ハチクマと

# 里山のクロスズメバチ

期 日 平成27年4月25日（土）～6月14日（日）  
時 間 9：00～16：30  
入館料 無料  
場 所 鳥海イヌワシみらい館展示室  
主 催 猛禽類保護センター活用協議会  
協 力 高嶋清明 酒田市光丘文庫（有）サプラス  
（公財）盛岡市動物公園公社  
齋藤利孝 ハチミツの森キャンドル  
TEL 0234-64-4681  
E-mail: moukin@raptor-c.com

ゴールデンウィーク特別イベント  
「蜜ろうそくを作ってハチクマの秘密を知ろう！」  
期 日 5月2日（土）～6日（水）  
9：00～16：00  
参加費 一人400円  
場 所 鳥海イヌワシみらい館特設会場

# イベント情報コーナー②

## ○野鳥観察会「飛島の猛禽類と小鳥たち」

山形県唯一の有人離島飛島は様々な鳥の楽園です。そこにやってくる渡り鳥たちと、猛禽類たちがどのように利用しているのかを観察します。運が良ければ珍鳥に出会えるかもしれません。

期 日 平成27年5月17日（日）  
 時 間 8:30~17:00  
 場 所 飛島  
 集 合 飛島定期航路事業所  
 定 員 先着15名  
 締切り 5月1日（金）午後5時まで  
 参加費 一人300円 ※定期航路代別  
 講 師 築川堅治氏（日本野鳥の会 山形県支部長）  
 長船裕紀氏（鳥海南麓自然保護官事務所自然保護専門員）  
 持ち物 双眼鏡（貸出可）、昼食、筆記用具  
 お申込み・お問合せ  
 E-mail moukin@raptor-c.com  
 TEL 0234-64-4681（鳥海イヌワシみらい館）

※島内の観察スポットを徒歩で巡りますので、歩きやすい靴、服装でお越しください。

鳥海イヌワシみらい館  
 ~野鳥観察会~  
**飛島の猛禽類と小鳥たち**  
 日時 5月17日（日）  
 8:30~17:00  
 集合場所 酒田市定期航路事業所  
 定員 先着15名  
 講師 築川堅治氏（日本野鳥の会山形県支部長）  
 長船裕紀氏（鳥海南麓自然保護官事務所自然保護専門員）  
 費用 一人300円（定期航路代別）  
 持ち物 双眼鏡（貸出可）、昼食、飲み物、雨具  
 服装 履きなれた靴、体温調節できる服装  
 申込締切 5月1日（金）17:00まで  
 問合せ・申込 TEL 0234-64-4681  
 E-mail moukin@raptor-c.com  
 主催：猛禽類保護センター活用協議会

## ○月山ビジターセンター・鳥海イヌワシみらい館共催 「春を感じる囀り観察会」

春を感じる鳥たちの恋の甘いささやきに、聞き耳を立てながらゆっくり散策。春を音から感じましょう。

期 日 平成27年5月16日（土）  
 時 間 8:00~12:00  
 集 合 大山公園駐車場  
 定 員 25名  
 募集期間 4月28日（火）~5月13日（水）まで  
 参加費 一人100円  
 講 師 太田威氏（ネイチャーカメラマン）  
 持ち物 双眼鏡（貸出可）、飲料水、行動食  
 お申込み・お問合せは以下の①②の施設いずれかまで  
 ①月山ビジターセンター  
 E-mail visitor@bz04.plala.or.jp  
 TEL 0235-62-4321  
 ②鳥海イヌワシみらい館  
 E-mail moukin@raptor-c.com  
 TEL 0234-64-4681

月山ビジターセンター・鳥海イヌワシみらい館共催  
**春を感じる囀り観察会**  
 鳥たちの囀りと一緒に、風の音、水の音、木々の音・葉がこすれる音...  
 グリーンシャワーを浴びながら、ゆったり、ゆっくいろいろな音を楽しみましょう。  
 集 合 場所：大山公園駐車場  
 集 合 時間：午前8時00分（お昼終了予定）  
 内 容：春を感じる鳥たちの恋の甘いささやきに、聞き耳を立てながら、ゆっくり散策。春を音から感じましょう。  
 講 師：太田威氏（ネイチャーカメラマン）  
 サブガイド：月山ビジターセンター・バーボングア  
 持 ち 物：双眼鏡（貸出あり）、飲料水、行動食（お菓子等お好きなもの）  
 参 加 費：大人100円 / 子ども無料（保険代等含む）  
 定 員：25名程度  
 そ の 他：多くは当日決めさせていただきます。  
 雨天時は中止させていただきます。  
 （実施の有無については、当日の午前6時~6時30分の間に、月山ビジターセンターへお問い合わせください。）  
 申込期限：2015年5月13日まで。（但し、定員に達しない限り、締め切りをさせていただきます。）  
 お問合せお申し込みは、どちらの一方の施設へお申し込み下さい。  
 ・月山ビジターセンター 〒991-0211 山形県鶴岡市羽黒町手向字羽黒山147-5  
 ☎0235-62-4321 (fax 兼用) Mail: visitor@bz04.plala.or.jp  
 ・鳥海イヌワシみらい館 〒999-8207 山形県酒田市草津湯ノ台71-1  
 ☎0234-64-4681 fax 0234-64-4683 Mail: moukin@raptor-c.com



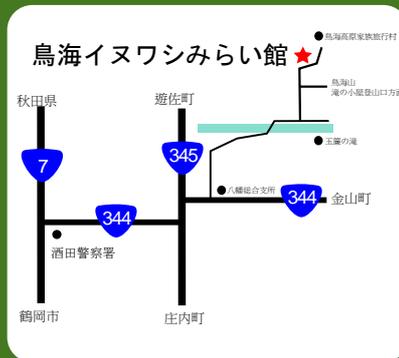
Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

## 編集後記 & 施設情報

### 鳥海イヌワシみらい館 4月からの開館情報

お休み・・・無休  
 開館時間・・・9:00~16:30  
 入館料・・・無料  
 臨時休館日はホームページにてお知らせします。  
 ホームページアドレス：<http://www.raptor-c.com>  
 〒999-8207  
 山形県酒田市草津湯ノ台71-1  
 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683  
 E-mail: moukin@raptor-c.com



**普及啓発担当**  
 今年は猛禽類保護センター開館15周年！面白イベント多数企画中（本）

**事務局**  
 観察会の参加者、通信のファン、ワッシーくん、人気上昇中！（村）

**自然保護専門員**  
 春の山菜の季節がやって来ましたね。フキのてんぷらと、フキ味噌を堪能してます〜♪（長）

**鳥海南麓自然保護官**  
 雪が溶け、足取りが軽くなりましたら、ぜひイヌワシみらい館へ！（鎌）